

入選

お兄ちゃんと話すため

香川県 古高松南小学校 3年 上野 杏樹

「なんで、文字がでてくるの？」

夏休み、はじめていとこのお兄ちゃんの家にとまりにいったときのことで。いっしょにテレビを見ていたら、自分の家とは少しちがうように感じました。よく見ていると、テレビの中で話をしている人たちの言葉が、文字になって出てきていることに気がつきました。

おばさんに聞いてみると、

「それは、じまくというものだよ。」

と教えてくれました。わたしのいところは、「なんちょう」といって病気で耳が聞こえにくいのです。

「お兄ちゃんは耳が聞こえにくいから、テレビも耳で聞くよりも目で見えたほうがわかりやすいんだよ。テレビでは、人の顔がうつらないときもあるから、そういうときに文字で話の内ようをつたえてくれると、いっしょにテレビを楽しめてうれしいね。」

と言っていました。どうして、顔が見えないとこまるのかというと、どうしても聞こえないときは口の動きで何を言っているのかわかるので、口の動きが見えることは耳の悪い人にとって大切なことなんだそうです。

その日の夜、わたしはお兄ちゃんといっしょにねました。

「耳が聞こえなくて、こまったことある？」と聞くと、

「たくさんあるよ。けれど、うれしかったことの方がいっぱいあるよ。」

と、友だちと遊んでいるときにほちょうきをなくして、みんながさがしてくれた話や、学校の先生がつくえやいすの足にボールを切ったものをつけて音が少なくなるように工夫してくれた話など、いろんな話を聞かせてくれました。

(わたしも何かできることがないかな？ 何をしたらいいのだろう?) となやんでいると、

「杏樹^{あんじゅ}も、いつもわかりやすく話してくれるからうれしいよ。」と言ってくれました。

お兄ちゃんは、いつも「ほちょうき」という、音が大きく聞こえるきかいを耳に入れてあります。いつもはふつうに話しているけれど、雨の日やあせをたくさんかいた日はほちょうきの調子が悪くなるみたいで、わたしの口を見て話をします。わたしがマスクをしていると、話が上手に伝わらないこともあります。そういうときは、紙に書いたり、マスクをずらして話をします。自分では気づいていなかったけれど、お兄ちゃんがよろこんでくれていて、わたしもうれしい気持ちになりました。

家に帰ってお母さんに話すと、

「親切ってむずかしいよね。何をしてあげるか考えることも大事。でも、杏樹^{あんじゅ}がしたように相手のことを考えて自然にしていることもそうなんだろうね。」

と言われました。お兄ちゃんの耳のことを考えて自然とできたことで、少し大人になれた気分でした。相手のことを考えることが大切で、おたがいがえがおになれることが大事なんだと思いました。さいしょは自然にできないけれど、少しずつ自然と相手をうれしい気持ちにできる人になりたいと思います。